

70 我が街 船橋を歩く 神社仏閣 (29)

—夏見稲荷神社 (2)—

29 期 仲田 元昭

今回は、夏見の日枝神社より東に徒歩 10 分程にある戦前まで農村であった旧東夏見村の鎮守、稲荷神社をご案内します。

「稲荷神社」

夏見にある稲荷神社の創建時期は不詳ですが、近くの長福寺が長く別当であったようです。

ご祭神は倉稲魂神(うかのみたまのかみ)で、京都の伏見稲荷大社から勧請したもので、豊作を祈る神、商売繁盛の神ですが、戦前までは農業が中心の村で豊作の神として、地元人々に信仰されてきました。

稲荷神社は、全国の神社の約 3 分の 1 (32 千社) と 1 番多い神社ですが、船橋では神明神社が 9 社と 1 番で稲荷神社は 2 番目、神明神社(総本社 伊勢神宮内宮)が多いのは、伊勢神宮の夏見御厨があったことも要因ではといわれています。

「鳥居」慶応元年(1865)に奉納建立されたもので、当時の地頭であった「遠山」の名が記されています。

「狛犬」鳥居前の狛犬は、稲荷神社ですが狐ではなく、大変珍しい子供を抱いた狛犬です。船橋大神宮の狛犬も子供を抱えており、よく似ています。

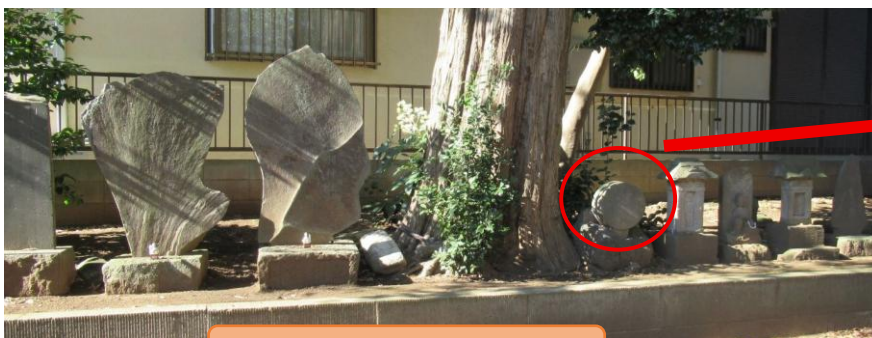
「石塔」 拝殿前に神祠・石碑・石塔が 8 基並んでいます。その中で塩竈神社の神祠が目立ちます。明治 19 年(1886)に東夏見村によって造立されていますが、塩竈神社は塩釜市にある旧国幣中社で陸奥国の一宮の古社です。



夏見稲荷神社の鳥居から境内を望む



子供を抱えている狛犬(口を開けている阿形)



石碑・石塔・神祠等 8 基



塩竈神社の神祠

(参考図書: 船橋の地名を歩く 船橋大神宮所蔵文書他) 71 我が街 船橋を歩く に続く「寄稿: 2026-9-1」